

# 知将、明智光秀の 再起の地への 思い



明智光秀肖像（本徳寺蔵）

**本**能寺の変を起こし、織田信長の生涯が描かれるドラマには必ずといっていいほど登場する武将、明智光秀。光秀に関する史料は少なく、その素顔や生涯は謎に包まれている部分が多くありますが、後に編さんされた『明智軍記』などから、彼が人生のうち約10年を福井（越前）の地で送ったという説があります。

光秀は享禄元（1528）年、美濃国、明智城に明智光鋼（諸説あり）の子として生まれ、美濃の戦国大名、斎藤道三に仕えます。26歳の

時、熙子と結婚しますが、弘治2（1556）年、道三を倒した斎藤義龍（道三の嫡男）に攻められ、明智城は落城。29歳の時、光秀は油坂峠を越えて越前に逃亡します。落着き先は、現在の坂井市丸岡町にある称念寺の門前で、生活は困窮を極めたといわれています。

光秀、35歳の時、転機が訪れます。加賀の一向一揆が越前に襲来した際、光秀は朝倉軍に与し、智才を活かして朝倉軍の勝利に貢献。これを機に、朝倉義景の客臣として迎えられたのです。その際のエピソード

が残っています。光秀が勝利に貢献したことが縁で、朝倉方の武将から「光秀の居宅で歌会を」との交遊の申入れがありました。しかし、極貧生活の光秀には、彼らをもてなす余裕などありません。この時、妻、熙子が光秀のために大切な黒髪を売り、御馳走を用意し、歌会を成功させたといえます。妻の支えが光秀の仕官を叶えたのです。

その後、40歳の時、朝倉に見切りをつけ、信長の家臣となります。天正3（1575）年、主君、信長の越前再侵攻の際にも、こんなエピソードがあります。戦乱の直後、光秀がかつて関わったと伝わる西蓮寺（現在の福井市東大味。一乗谷朝倉氏遺跡の南西）に対し、猛将柴田勝家たちから安堵状が出されました。安堵状は、光秀が住民の安否を気遣い、勝家に依頼し出状させたもので、これにより、西蓮寺は保護され、住民も無事に生活できたといわれています。（今も残る安堵状には、この寺者等は元の場所に帰って住むこと、理不尽なことを言う者がいれば、その者の名前を伝えよ。厳罰に処す」と記載されています。）

逆臣、裏切り者と称される光秀ですが、約10年身を置いた再起の地、

越前に感謝し住民を思いやる姿もまた、光秀の素顔なのかもしれません。地元住民は、光秀の思いに応えるように、毎年、命日の6月13日に法要を行い、光秀の遺徳を偲んでいます。

## 関連史料・ゆかりの地

### 明智神社（明智光秀屋敷跡）



福井市東大味には、明智光秀が居を構えた跡と地元で伝わる明智神社があります。光秀を祀るその神社で住民は、一向一揆等の敵から知力をもって村を守った光秀に感謝し、「あけつあま（明智様）」と慕い、崇めてきました。住民には、三女、玉（後の細川ガラシャ）はこの地で生まれたという説も伝わっています。

【住所】福井市東大味土井ノ内  
（福井ICより車で15分）